

平成20年 9 月 26 日  
水稻の作柄に関する委員会

## 水稻の作柄に関する委員会（第 4 回）の意見

### 1 9 月 15 日調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響

(1) 北日本を中心に 8 月中下旬に低温・日照不足となったものの、9 月に入ってから全国的に天候は回復し、高温・多照に推移している。

一方、9 月 18 日から 20 日にかけては台風第 13 号が日本付近を通過し、九州南部から太平洋沿岸の各地に大雨をもたらした。

今後の天候の見通し（9 月 19 日発表の気象庁 1 か月予報）では、全国的に気温は引き続き平年より高く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年よりやや多いと予想されている。

(2) このような気象の予報からすると、登熟については、おおむね順調に推移するものと見込まれるが、8 月中下旬に低温・日照不足となった地域における登熟への影響や、登熟期の高温による胴割米や腹白米、カメムシ被害による斑点米の発生による米の品質低下が懸念される。

### 2 次回の調査に当たって留意すべき事項

次回（10 月 15 日現在）の調査に当たっては、以下の事項が収量に及ぼす影響を適切に反映する必要がある。

(1) 8 月中下旬の低温・日照不足が作柄や品質に及ぼす影響

(2) 登熟期の高温や斑点米カメムシによる品質への影響

(3) 台風第 13 号の風水害による倒伏や作柄・品質への影響

(4) 今後の台風が作柄・品質に及ぼす影響

### 【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員

（座長）畑 中 孝 晴 社団法人農林水産先端技術産業振興センター顧問

秋 田 重 誠 公立大学法人滋賀県立大学名誉教授

黒 田 栄 喜 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授

丸 山 幸 夫 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授

近 藤 始 彦 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長

長谷川 利 拡 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域主任研究員

諸 岡 浩 子 気象庁地球環境・海洋部気候情報課調査官

米 本 博 一 全国農業協同組合連合会常務理事

築地原 優 二 全国農業協同組合中央会農業対策部長

安 藤 勲 全国米穀販売事業共済協同組合常務理事

## 水稻の作柄に関する委員会（平成21年産第3回）の意見

- 1 9月15日調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
  - (1) 8月中旬以降、日照は、おおむね全国的に回復し、平年並みか多照で推移している。

平均気温は、8月下旬から9月中旬にかけて、北日本及び東日本では平年を下回り、西日本ではおおむね平年を上回り推移している。

今後の天候の見通し（9月25日発表の気象庁1か月予報）では、東日本と西日本の気温は平年より高く、日照時間は全国的に平年並みに推移すると予測されている。
  - (2) 本年の水稻は、7月中旬から8月上旬にかけての日照不足等により、もみ殻の大きさ等への影響が懸念されるが、このような気象の予報からすると、今後の粒の肥大・充実はおおむね順調に進むと考えられる。
- 2 次期の調査（10月15日現在）に当たって留意すべき事項
  - (1) 7月中旬から8月上旬にかけての日照不足等が、登熟や品質へ及ぼす影響に留意する必要がある。

なお、全もみ数が少ない地域においては、9月以降の好天による登熟への補償作用の程度を見極める必要がある。
  - (2) 8月下旬以降、北海道等気温が低めに推移している地域においては、収穫の遅延等による登熟や品質への影響を見極める必要がある。
  - (3) 稲体が軟弱徒長傾向のため、倒伏、ウンカ、カメムシ等の病害虫による登熟や品質への影響に留意する必要がある。
  - (4) 今後の台風及び集中豪雨による作柄・品質への影響に留意する必要がある。

### 【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員・専門委員

- |        |           |                                      |
|--------|-----------|--------------------------------------|
| (座長)   | 染 英 昭     | 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会副理事長               |
|        | 秋 田 重 誠   | 公立大学法人滋賀県立大学名誉教授                     |
|        | 黒 田 栄 喜   | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授                |
|        | 近 藤 始 彦   | 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長 |
|        | 長 谷 川 利 弘 | 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域主任研究員         |
|        | 丸 山 幸 夫   | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授    |
|        | 山 岸 順 子   | 国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属農場准教授        |
|        | 渡 辺 典 昭   | 気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官                  |
| (専門委員) |           |                                      |
|        | 馬 場 利 彦   | 全国農業協同組合中央会農業対策部長                    |
|        | 米 本 博 一   | 全国農業協同組合連合会常務理事                      |
|        | 安 藤 勲     | 全国米穀販売事業共済協同組合常務理事                   |

### 水稻の作柄に関する委員会（平成22年産第2回）の意見

- 1 9月15日現在調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
  - (1) 気温は梅雨明け後9月上旬までは記録的な高温で推移し、日照時間は8月下旬から9月中旬にかけて全国的におおむね平年を上回って推移した。  
今後の天候の見通し（10月1日発表の気象庁1か月予報）では、気温は引き続き全国的に平年より高く、日照時間は日本海側が平年並みで、太平洋側はやや少ないと予想されている。
  - (2) このような気象の推移・予報からすると、登熟については、おおむね順調に推移するものと見込まれるが、登熟期の高温による粒の充実不足や白未熟粒、胴割米、カメムシ類による斑点米の発生に伴う品質低下が懸念される。
- 2 次期の調査（10月15日現在）に当たって留意すべき事項
  - (1) 登熟期の高温が登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。
  - (2) 出穂前の肥培管理や降雨に伴う刈り遅れが登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。
  - (3) ウンカ類、カメムシ類などの虫害が登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。  
特に、西日本ではトビイロウンカの発生が多いと予想されており、発生状況に留意する必要がある。
  - (4) 徒長気味の生育と見られる地域においては、倒伏の発生状況に留意する必要がある。
  - (5) 今後の台風及び集中豪雨による作柄・品質への影響に留意する必要がある。

#### 【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員

|            |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| （座長） 染 英 昭 | 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会副理事長              |
| 黒 田 栄 喜    | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授               |
| 中 園 江      | 独立行政法人中央農業総合研究センター農業気象災害研究チーム主任研究員  |
| 長 谷 川 利 弘  | 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域上席研究員        |
| 平 澤 正      | 国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院教授              |
| 前 田 修 平    | 気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官                 |
| 丸 山 幸 夫    | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授   |
| 山 岸 順 子    | 国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構准教授 |